

3月のテーマ 『親』について

はじめに オンライン「語らいサロン」の進め方について (川中子)

1 自己紹介をかねて…

お子さんの学年・クラス

「ここ1週間(最近)、親としてうれしかったこと」

2 議題1「親」とはどういう存在か？

○「子は親の鏡」

ドロシー・ロー・ノルト博士

「子どもが育つ魔法の言葉」シリーズ

<https://www.php.co.jp/books/dr.php>



○「親」のモデルは？

○自分の親に言われていやだったことは？

○自分の親に感謝していることは？

○自分が親になって… 「親はそんなにエラいのか？」

3 議題2 「親」の願い

○子供にどうなってほしいと思っているか

○そのために今、子供のためにしていること

4 議題3 「しつけ」について

○「しつけ」として考えていること

○虐待(身体的・精神的な暴力行為、ネグレクト)

5 議題4 まとめ - 子供のために「親」のできること

○親にも親の人生がある

○子育ては、「幸せ」か？

○ 『育てにくい子』と感じたときに読む本

児童精神科医・佐々木正美著（主婦の友社）



「手のかからない子がいい子だなんて、そんなのは大きなまちがいですよ。人生のどこかで、親は子どもにたっぷり手をかける必要があるんです。小さい頃に手をかけさせてくれる子が本当はともいい子なんです。」

「お母さんの望むような子どもにしようとするほど、なっほしくない方向へ向かうのです。…一番いい方法は、子どもを変えようとしません。『親が望むような子にしよう』と思うのではなく、『子どもが望むような親』に自分自身がなるということです。子どもがしてほしいことをしてあげて、子どもが望まないことはなるべくしないようにする。たったそれだけのことでいいのです。…楽な子育てが、上手な子育てなのです。」

「子どもは、親が自分に喜んで手をかけてくれることで、『信頼』や『思いやり』を学びます。」

「『過保護な親』はものすごく少ないと、私は思います。現在の親のほとんどは『過干渉』です。過保護とは『子どもの望んでいることをやってあげすぎてしまう』ということです。…でも実際には不可能ですよ。だから本来は過保護になることはできません。なったとしても悪いことではありません。『過保護は良くない』なんていう言葉は、きっと自分が楽をしたい人が考えたんだと思います。」

「過干渉は、過保護とは違い、子どもがやりたいと望まないことをやらせすぎてしまうことです。…自立心が育たなくなるのは、過干渉で育てられるからです。」

「私はいつも、『もので愛情は伝わらない』と言い続けています。愛情は、手や目や心をつけることで伝わるものであって、お金をかけることでは伝わらないのです。買い与えることで満たされるのは、親の自己満足に過ぎません。」

「『しつけ』というと、厳しく叱ったり、何度も繰り返し言ってきかせることだと思っている人がいます。でも、子どもたちはみな、理屈は分かっているのです。どうすればいいか、何が自分の良くないことなのか、言われなくても分かっています。犯罪者だってそうですよ。みんな悪いことだと分かってやっているんです。大事なことは、理屈ではなく、感情の部分で『悪いことはやめよう』『人を喜ばせることをしてあげよう』と思うことです。」

「兄弟を育てるときは、できるだけ上の子を大事にしてあげるといいですね。まず上の

子、次に下の子です。そうすれば、上の子はどんどん自立して行って、『僕はいいから、弟にやってあげてよ』って言うようになりますよ。」

「子どもを『親の都合』にあわせようとしているうちは、感情をコントロールできるようにならないのです。逆に**子どもにあわせていれば、必ず親の言うことをきく子に育ちます。**」

「手のかかる子や、要求の多い子は蘭や菊の花なんです。手をかければ、見事な大輪の花を咲かせます。」

「乱暴される子の悲しみは、その場限りの悲しみです。少しのフォローがあれば立ち直れます。でも、乱暴してしまう子、友だちを泣かせてしまう子は、もっと悲しい。もしかしたら、生まれてからずっと悲しいのかもしれない。その心を癒やさなければ、その子の乱暴はやみません。」

「もしも我が子が誰かに乱暴しても、子どもに『謝れ！』なんて言うてはいけません。それで満足するのは親だけです。**相手の子に謝るのは親の仕事だ**と私は思います。**親が心から何度もでも謝るのです。**それだけで子どもは、『自分のやったことは、このように謝るべきことなのだ』と理解します。その行動だけで十分伝わるのです。」